

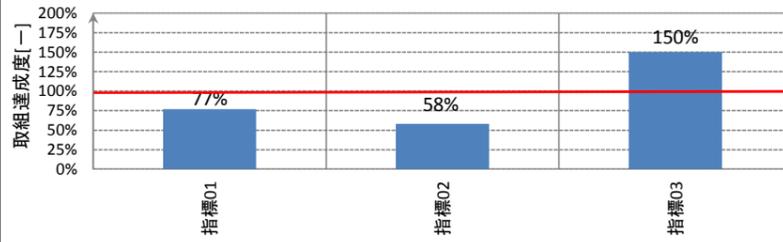
岩手県 釜石市

人口: 35,547人、16,874世帯(平成28年3月末現在)
面積: 101.86km²(うち森林面積27.66km²)

取組進捗評価結果(都市による自主評価に基づく達成度)

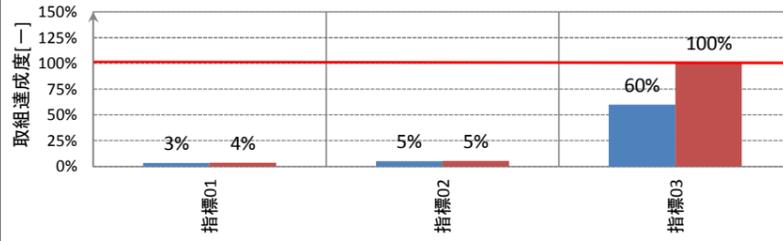
Q1. 環境的価値

1年毎の目標値に対する達成度



4年目の達成度平均 **95.0%**

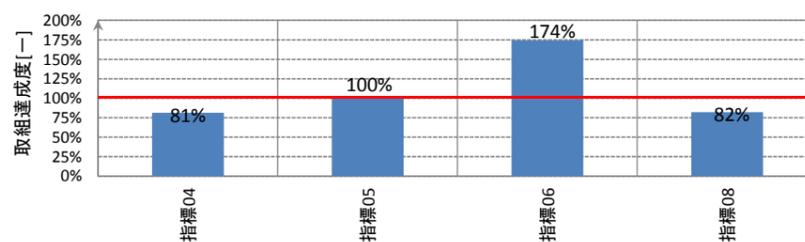
5年後の目標に対する達成度



4年目の5年目標に対する達成度平均 **36.3%**

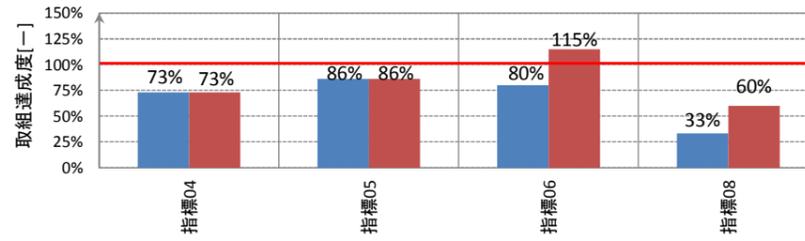
Q2. 社会的価値

1年毎の目標値に対する達成度



4年目の達成度平均 **109.3%**

5年後の目標に対する達成度



4年目の5年目標に対する達成度平均 **83.5%**

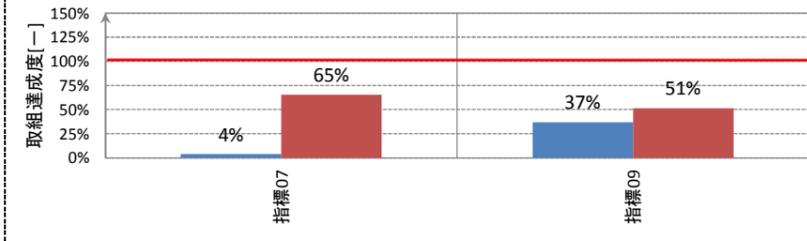
Q3. 経済的価値

1年毎の目標値に対する達成度



4年目の達成度平均 **187.0%**

5年後の目標に対する達成度



4年目の5年目標に対する達成度平均 **58.0%**

指標番号	指標名
指標01	地域内発電能力(kw)
指標02	地域内発電量のうち再生可能エネルギーの割合(%)
指標03	スマートコミュニティモデル構築数
指標04	OKはまゆりネット加入施設の割合(%)
指標05	65歳以上の就業者の割合(%)
指標06	認知症サポーター養成数(人)
指標07	釜石市への移住世帯数(世帯)
指標08	週1回以上スポーツを行った人の割合(%)
指標09	釜石市来訪者数(観光客入込数)(万人)

Q4. 特記したい事項(国際展開・都市間連携等)

環境未来都市である北九州市は、製鉄業によって栄えたという点で本市とルーツを同じくする背景があり、震災直後から復興支援のために多数の職員を本市へ派遣いただいているほか、環境未来都市計画やスマートコミュニティの取組についてもアドバイスをいただいている間柄にある。平成26年度より、スマートコミュニティ事業において学校・公共施設へ導入したBEMSを北九州市のCEMSと連携し、電力使用の監視技術を導入する事業を開始し、平成27年度に導入を完了している。今後も現在の関係を深めつつ、情報交換や相互に連携した事業展開を検討したい。

また、平成26年度からは、小学生とその家族を対象とした環境・エネルギー問題への意識向上を目的に横浜市をはじめ全国の環境未来都市が実施している「環境絵日記」の取組にも参加し、28年度も引き続き実施する。

今後も環境未来都市との交流を深めつつ、広く普及啓発に努めていきたい。

平成27年度の取組総括

スマートコミュニティモデルに指定されている、一括受電及び太陽光発電等の機能を備えた「スマート復興公営住宅モデル事業」が本格的な住宅供給開始に至った。

また、現在進めている2カ所の太陽光発電事業についても概ね計画通り進捗が図られており、いずれも平成28年度には発電を開始する予定。その他、公共施設へのBEMS導入、防災拠点施設への太陽光発電・蓄電設備の導入、電気自動車の導入についても着々と進捗を図ることができた。

医療福祉の分野においても、認知症サポーターの養成(261名、目標達成率174%)をはじめ、在宅医療連携の促進のための研修会・勉強会を開催し、体制の強化を図った。一方、関係機関で医療関連情報を共有するシステム「OKはまゆりネット」の新規加入状況は、当初の加入率が既に高かったこともあり、医療機関に比べて利用場面を想定しにくい介護事業者を中心に加入率が伸び悩んでいる。利用場面や加入メリットを理解してもらえるように、改めて未加入施設へ働きかける必要がある。

今後も、着実な進捗を図りつつ、状況を見極めながら構想実現に向けた取り組みを進めていきたい。

委員からの取組全体に関する評価

○全体としてバランスの取れた素晴らしい取組が推進され、一定の成果が出ていることを評価する。今後このような都市づくりがどのようなアウトカムを導いたのかを具体化されることを期待したい。

○医療関連情報の共有システム(はまゆりネット)の取組は評価できる。加えて、現状の医療介護サービスの維持だけでなく、よりよい未来のサービス開発という観点も期待したい。単に繋げることが目的化ではなく、そこから何が生まれるか、どういう風に医療や予防に役立つかが重要。今、連携が出来ていることは非常に良いことで評価できるが、なぜICT化するかということ、つまりデータの蓄積により、釜石市の特徴が把握でき、何の手を打ってほしいのかというデータベースの構築が可能となるということに十分に意識して、ご検討いただきたい。

○また、はまゆりネットの普及について、伸び悩んでいる理由が二つあると考えられる。1つはアナログで良いコミュニケーションができていない点。もう1つは介護現場での普及・入力伸び悩みが挙げられる。前者に関しては、現状で皆が満足できる状況まで話し合いが進んでいるため、普及に向けての動きが見られない。これは一見いいことだが、このシステムをうまく利用せずに医師や看護婦が死亡したり、転勤・引退したりしたら、支えになるシステムは機能しない。そのため、今こそ導入、利用を推進しなければならない。後者に関しては、どの地域のどんなシステムでも同様に起こっている問題である。提案としては、Tポイントのような消費者に還元される仕組みをUIで使えないかということ。このような仕組みはオペレーターへの負荷が小さい上に、普及向上が期待できる。

○観光についてフィールドミュージアム構想等は評価でき、ポテンシャルを感じる。今後は、これまで新日鉄依存で成り立ってきた町の特性から、町全体が経済界を中心に目標を共有し、一丸となって取り組み、質の高いおもてなしに優れた観光都市を形成することを期待したい。

○一関市は非常に観光客が増えているが、釜石市はラグビーにおいては世界ブランドといえ、インバウンドを意識してはどうか。東北の人はよく東京をみるが、新幹線が開通したのであれば札幌をみたほうが良い。札幌や函館から中国の方やその他を呼び込むとい。団体で北海道に行く観光客が増えている。仙台は東急が空港を現在所有しているため、東急と、また外国人が一番多く来ている千歳空港とも協議を行ったほうが観光客増加が見込める。